

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成 20 年 1 月 24 日 (2008.1.24)

【公開番号】特開 2002-187109 (P2002-187109A)

【公開日】平成 14 年 7 月 2 日 (2002.7.2)

【出願番号】特願 2000-386895 (P2000-386895)

【国際特許分類】

B 2 7 L 5/02 (2006.01)

B 6 5 H 19/10 (2006.01)

【F I】

B 2 7 L 5/02 R

B 2 7 L 5/02 T

B 6 5 H 19/10 A

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 11 月 29 日 (2007.11.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

以下、本発明を図面に例示した実施の一例に基づいて更に詳述するが、理解を容易にする便宜上、本発明を適用する巻取り軸を用いる巻取り装置の実例と一緒に説明する。図 1 は本発明を適用して系の係合部を形成して成る巻取り軸の一部拡大正面説明図であり、図 2 は図 1 の線 Y - Y に於ける一部拡大断面説明図である。図 3 は本発明を適用する巻取り軸を用いる巻取り装置の一部破断側面概略説明図であり、図 4 ~ 図 7 は図 3 に例示した巻取り装置の側面作動説明図である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

詳述すると、各供給ノズル 4 a は、ペンシルロケット状の本体の芯部に後端から先端に至る貫通穴 4 b を、中間部に前記貫通穴 4 b に臨む切欠き 4 c を、後部に前記貫通穴 4 b に連通する流体供給パイプ 4 d を夫々有しており、巻取りの始動時には、流体供給パイプ 4 d を介して供給される流体（圧縮空気を用いるのが簡便である）と、切欠き 4 c を介して供給される系 9 とを先端から吐出すると共に、巻取りの運転時には、系 9 のみを先端から導出する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

一方、系切断部材 5 は、前記供給ノズル 4 a の切欠き 4 c よりも先端寄りの位置に位置して、貫通穴 4 b に臨む部位乃至はその近傍に、電熱ヒータ・ナイフ等の系切断具（図示省略）を備えており、巻取りの終了時に限って、系切断具を稼働させ、貫通穴 4 b の内部

に於て系 9 を切断する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】

そして、巻取りの終了時には、好ましくは、巻玉 3 0 の外周へ適回数余分に系 9 を巻付けた後に、各系供給機構 4 の系切断部材 5 を稼働させて、各供給ノズル 4 a の貫通穴 4 b の内部に於て系 9 を切断し、巻玉 3 0 を巻取り装置の後段へ移送するだけで、巻取り処理が完了するが、各供給ノズル 4 a の貫通穴 4 b の内部に於て系 9 を切断するので、以下、同様の操作の再現によって、次々と巻取り処理を繰り返すことができる。